

## 平成 29 年度実施「いきいき協働事業」相互検証評価シート

事業名	小平市ペアレントプログラム実施事業(小平市いきいき協働事業)
団体名	NPO 法人 こども未来ラボ
担当課名	障がい者支援課

## 1 目的の共有（事業の目的をお互いに理解し、共有しながら事業を進めたか）

団体自己評価：1	担当課自己評価：1
・「発達障がいの子を持つ親を支援する」という共通の目的に沿って事業を進める事ができた。	

## ②自主・自立の尊重（双方の団体としての独立を尊重し、過度に依存することなく事業を進めたか）

団体自己評価：1	担当課自己評価：1
・互いの強みをよく理解していたことから互いの立ち位置を尊重し、仕事配分もスムーズに行われた。	

## ③相互理解（互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方を理解し、柔軟な対応が図られたか）

団体自己評価：1	担当課自己評価：1
・地域の課題を解決するために在る団体と障がい者支援課の抱える地域での課題が合致していたために相互理解がなされた。	

## ④対等関係（互いの事業活動における対等な立場を踏まえ、事業を進める様々な場面において、適切な協議、意見交換等の機会を設け一方的に決めることなく十分に話し合ったか）

団体自己評価：1	担当課自己評価：1
・毎日のように連絡や打ち合わせを繰り返し、意見交換を行ったことで対等な立場で事業を進める事ができた。	

## ⑤情報の共有（相手方と十分な情報の共有ができたか）

団体自己評価：1	担当課自己評価：1
<p>・契約にあたっての事前打ち合わせ、事業実施中での打ち合わせによりお互いの役割などをその都度確認したため、明確であった。</p>	

## ⑥役割分担と責任の明確化（事業実施にあたって役割分担が明確に定められていたか）

団体自己評価：1	担当課自己評価：1
<p>・年間を通じての計画者が綿密であったことで全く問題なく業務に集中し、その成果が得られることに繋がった。</p>	

## ⑦協働事業の相乗効果（市が単独で実施するより効果的・効率的な事業展開ができたか）

団体自己評価：1	担当課自己評価：1
<p>・市の持つ情報量の適切な方向性、判断と団体の持つ地域密着型の情報網から効率の良い展開に繋がった。</p>	

## ⑧目標の達成（事業の目的が達成できたか）

団体自己評価：1	担当課自己評価：1
<p>・発達障がいの子どもの持つ親を支援する目的でのプログラム実施はアンケート結果からも達成度はたいへん高いといえる。</p>	

## ⑨地域の課題解決（事業を通じて地域の課題解決につながったか）

団体自己評価：2	担当課自己評価：2
<p>・地域の課題である発達障がい児の親支援を行うことができた。また今後に向けて行政・NPO・支援者などを巻き込むための仕組みを作ることができた。</p>	

## ⑩その他意見（提案団体から）

--

## ※自己評価項目

1	十分達成できた
2	達成できた
3	概ね達成できた
4	目標を下回った
5	達成できなかった